

**係助詞**

：強調(文末に力を及ぼす)

ぞ・なむ・や・か・こそ・は・も

ぞ (強調)

なむ (強調)

や (疑・反)

か (疑・反)

こそ (強調)

已然形

連体形

係り結びをする係助詞は右の5つだけ

は (強調)

も (強調)

終止形

係り結びをする係助詞は、「ぞ・なむ・や・か・こそ」

「こそ・ぞ・なむ」の強さは **こそ** > **ぞ** > **なむ**。

「なむ」が一番弱い。会話には「なむ」が使われていることが多い。

もぞ — 連体

もこそ — 已然

くしては困る・大変だ

・さかしらする親ありて、思ひもぞつくとして

(||でしやばる親がいてへ女への愛情がついては困ると思つて)

やは  
かは

反語(ごくたまに疑問のときもある)

・浅くは人を思ふものかは

(|| 浅い心であなただを愛していたでしょうが、いやそんなことはございません↓深くあなたを愛していました)

## 《係り結びの消滅(流れ)》

係助詞(ぞ・なむ・や・か・こそ)の結びの直後に語(接続助詞が一番多い)が続くことにより、係り結びが成立せず、結びが消滅してしまうことがある。

・たとひ耳鼻こそ切れ失すとも、命ばかりはなどか  
生きざらむ

「こそ」の結びとして「切れ失すれ」(下二・已然形)となるべきところが、接続助詞の「とも」が続くことにより「:とも、命ばかりは:」と続いてゆくので結びが消滅した。

「こそ」は已然形で結ぶ、これはいいよな！でも、もし、「こそ」を已然形で結んだ時、結びの已然形の下に「、」があったら逆接（ノニ・ケレドモ・ノダガ）で訳す。

## 文中の

こそー已然（、）

は逆接

という公式を覚えてくれ！よく出るぞ！

・人の召しに従うてこそ参れ○

（||人に呼ばれてから参上するのに）

・身にしみけむかしと思はせたるこそ、心にくくも、  
優にも侍れ○

（||さぞ身にしみたことだろうよと（読者）に思わせたのが、  
奥ゆかしくも、優美でもございますのに）

・うしろやすからむ妻などにあづけてこそ死にも心  
やすからむとは思ひしか○

（||安心できるような妻などと結婚させてこそ死ぬのも  
安心だろうとは思ったけれども）

## 《ハイレベル》

係助詞「や」と「か」の違いは、疑問詞が来る時「か」を使う

・ いづれ疑問詞か歌を詠まざりける

・ 殿は何疑問詞にかならせ給へる

「や」の上は終止形、「か」の上は連体形。次の例で覚え  
ておこう！

